

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東棟)

事業所番号	0691900039		
法人名	社会医療法人公徳会		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	南陽市桐塚929		
自己評価作成日	令和4年 9月 13日	開設年月日	平成19年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くに病院(精神科、内科)や老人保健施設があり、健康面、医療面でなじみの先生に迅速かつ継続的に診て頂くことができ、利用者、家族共に安心して生活を送ることができます。専門のリハビリスタッフの助言をもらいながら個別・集団リハビリを行い、又、管理栄養士からも栄養面での助言をもらい、利用者の嗜好や栄養のバランス、季節感のある献立に配慮し食事を提供しています。外出して楽しめるようなレクリエーションは現在はコロナ禍で困難となっていますが、季節感のあるレクリエーションを月1回程度行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 4年 10月 6日	評価結果決定日	令和 4年 10月 27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内に同法人が運営する病院、老健施設、居宅介護支援事業所、デイケア、グループホーム、企業内保育所等々多くの事業所が設置され、施設間の緊密な連携が図られており、それが利用者や家族の安心に繋がっている。コロナ禍で面会や外出制限などが長引く中、職員は「利用者中心のケア」を実践するため、利用者の思いや願い希望を汲み取るための具体的方策を目標達成計画に掲げ、これをユニット目標にして共有し、話し合い工夫しながら取り組んでいる。また働き易い職場環境と条件が整備されており、長期勤務者と経験豊富な職員が多く、利用者や家族との馴染みの関係が築かれている。更に、利用者や家族それぞれを対象にしたアンケートの実施と結果の活用、運営推進会議の書面開催時の意見聴取方法や結果への対応等コミュニケーションを大切にし常に創意工夫を重ねながら前進している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を常に意識するように玄関・事務室・デイルームに掲示している共通理解を持ち日々のケアに活かせるよう今後理念についての学習会を予定している。	家庭的な環境でぬくもりのある生活、一人ひとりの意思の尊重、安心安全な生活等を事業所の理念とし、目の付きやすい場所に掲示し、常に意識できるようにしている。また目標達成計画に掲げた内容をユニット目標として共有し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の時に地域のボランティアサークルの方と交流があったが、コロナ禍で出来ていない。法人内の職員に踊りなど披露してもらい交流をしている。新型コロナウイルス感染予防のためカフェは中止している。地区の春祭りも中止で子ども神輿も中止となり交流出来なかった。	コロナ禍のため、以前のような交流はできないが、散歩、ドライブの他、法人内の職員が趣味活動としている踊りや唄を披露してもらうなど、楽しみの機会を作りながら交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ぬくもりカフェにデイルームを開放し利用してもらい、グループホームについて理解してもらっていたが、現在は新型コロナウイルス感染予防のためカフェは中止している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の実情や利用者の状況やサービスの内容、評価への取組み状況について報告し話し合いを行い、そこでの意見を可能なものについてはケアに取り入れ双方向な会議にしていたが、新型コロナウイルス感染予防のため現在は紙面での会議としている。	市職員、民生委員、利用者、家族と2か月に1回開催している。コロナ禍のため、書面開催としているが質問や意見を頂けるよう所定の用紙を添付しており、出された意見や質問には回答を記載し次回の会議で報告している他、内容により運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の福祉課の担当者に運営推進会議に出席してもらい、事業所の実情を伝えている。芋煮会に担当職員を招待し利用者で交流する機会を設けていたが、新型コロナウイルス感染予防のため出来ていない。制度で分からない事は積極的にきいている。	書面による運営推進会議で出された意見や質問に回答を記載し、市役所に届けている。今年はコロナワクチン接種についての情報交換を行った。その他個別の案件についてはその都度連絡をしながら協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束について学習会をして禁止の対象となる具体的な行為を理解し日々のケアを振り返り、そのような行為をしないことを確認し合っている。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、身体拘束をしないよう話し合い、会議結果について全職員が目を通すようにし、共通理解を図っている。	身体拘束をしないケアについて研修会や学習会で徹底している。事業所で身体拘束適正化委員会を3か月に1回実施し詳細な記録を作成している。厚労省の通知に、運営推進会議を活用することができる」と記載しており、今後の開催について検討したい意向である。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止法について学習し虐待についての具体的な行為を理解し、日々のケアを振り返りその様な行為をしない事を確認し合った。利用者の身体にアザや傷等がみられた時は、その日のうちに職員間で何によるものか明らかにして虐待でない事を確認し合っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学習会をして日々のケアで具体的にどの様にするのか理解し確認し合った。現在は成年後見制度を利用している人はいないが、今後必要な人が現れた時は補佐人と相談しながら本人に必要な支援を行っていく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改定の際は利用者の家族に丁寧に説明し疑問がないか尋ね、理解納得してもらっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意向・要望等を注意深く受け止め可能な限り応えるようにしている。家族の来所時に直接意見や要望を聞くようにし、年に一度利用者・家族にアンケートを行い、それらの要望に応えるよう努めている。新型コロナ感染予防のため面会禁止の時は電話やオンライン面会時に要望を聞いている。	家族からは、オンライン面会時や電話で意見や要望を聞いている。毎年利用者アンケート、家族アンケートを実施し結果をまとめ、職員で話し合い運営に反映させている。毎月、家族宛て生活の様子を記載し、写真を入れたお便りを送り喜ばれている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議やフロア会議で職員の意見や提案を聞き運営に活かし、必要があれば上部の会議に提案し可能な限り運営に反映させている。設備や備品で運営に必要なものがあれば検討して設置している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期・下期に分けて事業計画に沿って各自目標を設定し仕事に取り組んでいる。半期ごとに実績や頑張りを評価し各自が向上心を持って働けるように努めている。家庭環境や事情を考慮し勤務調整、休み等の相談に応じて安心して働けるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、それぞれのレベルに合った法人内外の研修に参加出来るようにしている。施設内では学習係を中心に認知症ケアに関する学習会・その他の伝達研修をして全員がレベルアップできるようにしている。新型コロナ感染予防のため、外部の研修参加を控え、オンラインの研修に参加している。	年間研修計画を作成し、法人内外の研修への参加、職場内学習会を実施している。コロナ禍のため、オンラインやYouTube配信による研修参加となっている。年2回自己目標を設定し実績や頑張りを評価しスキルアップに繋げている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍となりオンライン研修が中心で交流会は出ていない。質問等あれば他施設に訪問又は電話で情報交換を行っている。	コロナ禍のため、オンライン研修に参加したり、電話やメールでの情報交換を行っている。最近では物価の値上げで事業所運営に影響しており、その対応についての情報交換を行った。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の実調時に不安や要望、生活状況を聞き、ケアに取り入れ、安心した生活を送ってもらえるよう努めている。言葉で表現できない方は様子観察して要望等把握している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を取り巻く家庭環境を把握し、家族の不安や要望に耳を傾けている。入所後も面会や電話等で積極的にコミュニケーションを図りながらより強い信頼関係が作られるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の相談内容を十分に見極め、状況や意志に沿ったケアを行えるように努めている。必要があれば他のサービス・制度等を紹介している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で職員と利用者が共に過ごす時間を多く設け、喜びや不安を分かち合える様努めている。洗濯物たたみや食器拭きなど、できる家事を一緒に行い、お互いに支え合う関係を築いている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時や電話で、ホームでの生活の様子を伝え、家族の意見を聞き、お互いの意見や思いを共有している。毎月の家族への手紙や写真で、本人の変化・生活の様子や出来事など詳しく伝えている。コロナ禍でカンファレンス参加が困難な期間は、オンライン面会時や電話で情報交換している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において面会禁止中は窓越面会や、オンライン面会を行っている。そのような状況でも気軽に立ち寄れるような雰囲気づくりに努めている。感染対策を十分に行い、法事で集まった家族に会いに外出した方もいる。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性や人間関係を把握し居心地の良い環境づくりに配慮している。利用者の中に入り柔軟に対応する事で相手を理解しお互いに支え合う関係づくりに努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時にはホームでの思い出の写真をアルバムにして渡している。退所後の方向性について相談を受けた時はどのような資源があるか丁寧に説明し共に考えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を汲み取り、個別的な関わりの中で実現出来るような機会をつくっている。自ら表現できない方についても、普段の生活から本人の思いを汲み取れるように関わり、把握できた事については日々の申し送り・カンファレンス・フロアミーティング等で情報を共有している。	目標達成計画に掲げ、それをユニット目標として全員で取り組んでいる。センター方式C・Dシートを取り入れ、本人の意向や要望を具体的に記載している。困難な場合でも日々の生活の中で、しぐさや表情から思いを汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時ばかりでなく、入所後も様々な情報を得られるように、本人・家族との信頼関係づくりに努めている。家族の来訪時に現状を伝え以前の暮らしと比較しながら様々な情報を把握できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し、生活の中での行動・言動・表情などに注意しながら心身の状態の変化の把握に努めている。本人ができる事を見つけ、日々の生活の中で生かしてもらうよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画が立案出来るように日々のモニタリング・アセスメントを行っている。カンファレンスの際は事前に電話等で家族や関連部署の意見を聞き、様々な情報を共有して介護計画を作成している。	毎月のモニタリング、3か月毎の再アセスメントを基に6か月ごとに計画の見直しをしている。家族からは、オンライン面会や電話で意向を聞き、関係者で話し合っている。計画書の「本人の意向」欄は、本人の言葉で表現し、気持ちが通い合う生活の見える計画書となっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画、モニタリング表に沿った記録を行っている。また申し送りシートを活用し普段の記録だけでなく細やかな情報の共有を行い、重要な情報が確実に伝わるよう留意し、日々のケアに活かせるようにしている。必要時は介護計画の見直しに役立っている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今現在新型コロナウイルス感染予防の為、消防団と共同での避難訓練は行っていないが、以前は消防団の協力を得て訓練に参加してもらい、いざという時に安全に避難できるよう入居者と関わってもらっていた。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院(精神科・内科)の受診は職員が通院介助を行っている。また、月に一回内科医が往診を行っている。外部のかかりつけ医の受診は家族や同法人の訪問介護員が行っている。介護タクシーの予約や病院の紹介状の手配など家族の受診の支援を行っている。	併設の医療機関(精神科・内科)との連携が図られており、往診もしてくれるため、転院する人が多い。他科受診の際は家族や同法人の訪問介護員が同行しており、受診連絡表により情報を共有している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師にバイタルチェックや心身状態の観察をもらい、日々のケアの中で身体面で心配な事があればすぐに助言を得られる環境を整えている。必要時は受診介助をもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した際は直接医療機関に訪問し、主治医や医療連携室・病院関係者との情報交換を密にし病院のカンファレンス等にも参加している。面会を通して本人の様子を直接把握し、情報を収集している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、カンファレンス時に家族の意向を聞き、方向性を話し合っている。必要時は主治医と家族の面談を行い、状態の説明や、今後についての相談を行っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた取り組みについては、これまでも家族・関係者で話し合い対応してきた。更に本人自身の気持ちを大切にしたいとの思いから、目標達成計画に掲げ、専用のシートを作成し、確認した内容を家族に見てもらい関係者で共有し対応すべく準備中である。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時、事故発生時のフローチャートの見直しを行い、職員の動きや他部署との連携・連絡形態を確認している。応急手当、AEDの使用法の学習会を10月に予定している。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>6/19、水害想定訓練を行い、避難場所へ移動したり、防水シャッターの使い方を確認した。火災訓練はこれから実施する予定。避難誘導の手順や火災報知器の使い方など確認する。コロナ前は消防団の方にも参加してもらっていた。</p>	<p>消防署が参加する法人全体の訓練を年2回、水害や火災を想定した事業所独自の訓練を年2回実施している。本年の大雨時は、隣接の老健施設に早めに全員避難し、デイルームにベッドを配置して一泊した。混乱することなく過ごすことができた。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシーの保護や人権擁護についての学習会を7/26に実施した。職員の声掛けや関わりにも共通の意識を持ち、一人ひとりの人格を尊重してケアを行っている。</p>	<p>一人ひとりの人格の尊重を事業所理念に掲げ、ユニット目標にして取り組んでいる。プライバシー保護や声掛けについての学習会を実施し共通認識のもとに「利用者中心」の介護を実践している。</p>		
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の思いや希望を出来るだけ聞き取り対応を心掛けている。認知症の進行により自己決定が難しい利用者へは職員が思いや希望を汲み取り対応している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のコミュニケーションを大切に、一人ひとりの思いや希望を聞くようにしている。一日の大まかな流れはあるがその日の状況、状態を見極め個別のニーズを意識した柔軟なケアに努めている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を心掛け、暑さ寒さ等個人の感覚に合わせて調節できるようにしている。月に一度床屋に来てもらい定期的な散髪を行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材、料理を意識してメニューに取り入れている。利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けを行う機会を設けている。行事や誕生日等の特別な日には赤飯や変わりご飯を提供している。又、利用者の希望を元に、思い出に残るような食事を心がけている。ラーメンの出前や笹巻作り、納涼会でアイスにトッピングするなどのレクリエーション等を行った。	開設以来、三食とも事業所内での手作り食事を継続している。買い物から準備、後片付けまで利用者に参加してもらっている。行事食やおやつ作り、出前などを取り入れ、レクリエーションとして楽しみの一つでもある。近年、利用者の高年齢化や職員の負担等により、現方法の見直しについて検討中である。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	佐藤病院の管理栄養士から献立について定期的なアドバイスもらっている。食事量チェック表や水分チェック表、栄養スクリーニング表を活用し、摂取状況を把握し、栄養や水分が十分に確保できるよう努めている。アルブミン値をチェックし主治医に相談し、低下の対策としてラジウム卵を提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にブラッシング(歯間ブラシ)の介助や義歯の洗浄、ポリドントを行っている。その人の状況に合わせた口腔ケアをしている。口腔・栄養スクリーニングを行い、口腔内の写真を撮って変化が分かるようにしている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努め声掛けしたり、行動や言動に気を配りながらトイレ誘導を行い、排泄の自立を促している。主治医と相談し、時には便秘薬を使用し排便のコントロールを行い排泄の自立に向けた支援をしている。また、寒天を使用した手作りおやつを取り入れている。	排泄チェック表を活用し排泄パターンや習慣を活かして排泄支援をしている。トイレでの排泄を基本にして自立に向けた支援のため、尿量や回数により尿取りパットの大きさや種類についても職員で話し合い、きめ細かな取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や適度なリハビリを心掛けながら、日々の水分補給に努め、個々の予防に取り組んでいる。水分摂取量の少ない方には、好みの飲み物を提供している。また、週に1回おやつに寒天を取り入れている。必要に応じ、下剤も服用している。リハビリ時、「の」の字体操を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の体調に合わせてながら入浴をしている。出来る部分は声掛けをしながら行ってもらい、安全に気持ち良い入浴ができるように対応し支援を行っている。曜日の希望がある方は希望を取り入れて入浴している。	利用者の希望を取り入れながら最低週2回の支援が行われている。身体機能が低下している利用者には、シャワー浴や二人介助で対応しているが、機械浴の導入について検討中である。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中での活動時間を多くし、その時々状況に応じて休息する時間も適度に取り入れている。昼夜逆転を防ぎ、夜間良眠が出来る支援を行っている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が責任を持って分薬し、他の職員との2名体制で確認を行っている。誤薬が無いよう、日付け、名前、いつの薬かを声を出し確認して支援し、症状の変化に努めている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事の楽しみ事や家事活動、余暇活動を行い、気分転換の支援を行っている。畑仕事への取り組みを行い、昔を思いだして精力的に活動している。また、作業ができない方も収穫を行っている。レクリエーション時には事前にポスターを掲示し、意欲を高めている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は散歩に出かけたり、行事等を企画し、気分転換できる様に支援している。コロナ禍で以前と同様の外出が難しいが、代替の楽しみを提供できるように工夫している。単身の方で家人も遠方に居るため、職員付き添いで自宅への外出を行った。また、希望者は期日前投票に出掛けた。	コロナ禍のため、以前のような外出はできないが、散歩、ドライブ、法人の畑でのぶどう狩りなどできるだけ外出の機会を創出している。今年の参議院選挙には希望者は期日前投票に出かけた。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物等の希望があれば外出援助行い、洋服等買いに掛けているが、コロナ禍のため基本的には購入希望の物を職員が代行して買ってきている。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>3.7.11月に個人のスナップ写真をまとめて家族に送り、日常の様子を伝えている。顔をみながら会話ができるオンライン面会を行っている。また、曜日を決め定期的に家族と電話している方もいる。年賀状を送ったり、手紙をFAXしたりするなど、家族とのやり取りができるよう支援している。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やデイルーム等に、利用者の作品、レク写真を掲示している。季節ごとの花や、飾りつけを一緒に行い居心地の良い空間づくりを行っている。</p>	<p>居間食堂には椅子、テーブル・ソファが配置され、好みの場所でゆっくり過ごすことができる。季節の花が飾られ、壁面には利用者の作品が展示されている。温度湿度が管理され、定時に換気が行われている。ピアノが配置され豊かな潤いが漂いコロナ禍前は音楽療法に使用されていた。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルの配置や気の合う方同士で過ごせるよう随時検討している。ソファには常に好きな歌や音楽が楽しめるようセッティングしている。</p>			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビや家具の他に、馴染みの寝具や写真等を持ち込んでもらい落ち着いて、居心地よく過ごせるように支援している。</p>	<p>使い慣れた家具や調度品、寝具などを持ち込み、写真や、賞状などを飾って自分らしく居心地よい部屋作りを支援している。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>張り紙や目印を掲示し場所が覚えやすいように工夫している。建物は全てバリアフリーになっており、利用者の自立と安全確保の配慮に努めている。</p>			